

アンケート感想

団員感想：

Q1：訪日を通じて、日本の印象は変わりましたか？

Q2：日本の教育の現状について、理解は深まりましたか？

Q3：日本の教育制度について、中国が参考にしたいと感じた内容があれば教えてください。

Q4：その他、日本の教育について、どのようなことを知りたいと思いますか？

Q1：

今回の訪問を通じて、日本への理解を深めることができた。特に、環境保護における日本の取り組みの成果が印象深く、いたるところが清潔。また、日本は低炭素排出を重視しており、すばらしい施策を多くとっている。

Q2：

日本の教育の現状について、さらに理解を深めた。日本の学校は一般的に生徒の潜在能力を引き出す教育を重視している。また、生徒の個性を伸ばし、世界や人類への貢献という社会的責任感を育てることに力を入れているように感じた。

Q3：

- (1) 生徒の潜在能力を引き出しながら、全面的に生徒の能力を伸ばし、資質を高める努力をすること。
- (2) 生徒の環境保護意識を高め、環境保護のボランティア活動に参加するよう促すこと。
- (3) 世界を引っ張るリーダーシップや能力を生徒から引き出す教育を強化すること。

Q4：

- (1) 国や地方自治体は高校教育をどのように評価しているか。具体的な評価施策はどのようなものか。
 - (2) 高校教師はどのように自分の専門能力と素養を高めているか。具体的な方法はどのようなものか。
-

Q1：

現在は、ネットやメディアが発達しており、情報が多くあるので、中国国内にいても日本および日本の教育に関して、ある程度理解していた。今回の訪問を通じて、日本の経済、環境、教育などにおける日本の努力と成果について、さらに理解を深めることができた。

Q2 :

具体的な見学や討論を通じて、日本の大学、高校、中学、小学校の教育体制、授業カリキュラムの設定、運営モデルについて、さらに理解を深めることができた。中国の教育界に参考となるような、良い方法を学ぶことができた。

Q3 :

日本の教育は、学校モデル、授業カリキュラムの設定、生徒の個性の伸長、および政府の支援のいずれも学ぶべきところがある。日本は高校教育と大学進学のための教育を分けて行っており、大学が割と自主的に入学試験を実施している。この点も、我々が学び、教育の改善に役立てていきたい。

Q4 :

今回の見学は時間の関係で通り一遍なものに終わってしまったところがあった。今後は、学校の経営理念やカリキュラムの設定、生徒指導、査定、評価などさまざまな方面で交流を深めたい。また、生徒や教師との交流を通じて、教育に関する意思疎通をさらに深められたらと思う。

Q1 :

日本人の礼儀正しさ、真面目に仕事に取り組む態度、緻密さ、細部へのこだわり、環境保護意識、資源を大切にす態度とその取り組みに感銘を覚え、深く考えさせられた。

Q2 :

視察の順序を少し入れ替えてもらえればよかった。例えば、先に政府の報告を聞いて、地方の教育委員会との懇談会を経てから、最後に学校を見学すれば、視察の目的がはっきりするし、もっと分かりやすかったかもしれない。

Q3 :

日本の国民全体への資質教育、教育普及率の高さ、バランスの取れた教育は非常に参考にする価値がある。

Q4 :

学校現場の一職員として、日本が学校経営の中で、専門テーマの教育を具体的にどのようなに行っているか知りたい。例えば、生徒の創造力をどのように培うのかなど。

Q1 :

- (1) これまでは、日本に関する主な情報源はテレビや映画だった。実際に日本を訪問してみて、日本社会の秩序立った様子がとても良いと感じた。
- (2) 亀山公園、天竜寺などを見学して、日本が自然環境や歴史遺跡の保護を非常に徹底して行っていることが分かった。

(3) 普段の日本の街のあちこちを観察したり、着物ショーをみたりして、日本が伝統文化を大事にしていることがよく分かった。

Q2 :

- (1) 日本の教育制度、学校の種類、学校への評価と管理の制度を理解した。
- (2) 日本の教育従事者の仕事への取り組み方、研究理念を理解した。
- (3) 日本の義務教育および高校の財源の出所が分かった。

Q3 :

- (1) 私立学校の管理：日本の私立学校の教育レベルは公立校より高いとのことだが、中国では全く逆。
- (2) 小中学生への人格教育：日本では社会的責任感を身につける教育を重視している。
- (3) 中高一貫校：進学試験を一回減らし、資質を高める教育に、より多くの時間を割くことができる。

Q4 :

- (1) 大学の管理、評価、教員の養成について。
 - (2) 大学における研究活動の状況について。
 - (3) 中学、高校、大学の学生の教育プロセスについて。
-

Q1 :

最も強く感じたのは日本国民全体の資質がとても高いこと。例えば、街並みが整然としており、街のすみずみまで清潔で、トイレが非常に綺麗なこと。サービス施設が揃っており、社会秩序はきちんと保たれ、安全感がある。人々は社会ルールをしっかりと守る自覚があり、治安も良い。

Q2 :

数日の訪問活動を通じて、日本の教育現状への理解をさらに深めることができた。バランスの取れた教育が進められ、国立、公立、私立を問わず、日本政府がそれぞれに投資や支援を行い、どの学生にも良い教育が受けられることを保障している。また、どの学校の校長も先進的な教育理念を持っていることに深い感銘を覚えた。

Q3 :

- (1) 政府の私立学校へのサポートと援助により、学校側や保護者の負担が軽減されている。
- (2) 校長の交替制度。2～4年で校長が交替することで、校長がいろいろな職場で経験を積むことができる。
- (3) 絶えず新しい教育モデルを作り出している。例えば、中高一貫制は生徒の負担を軽減し、本当の資質が身につく教育ができることなど。

Q4 :

就学前教育について知りたい。義務教育ではないが、基礎教育の重要な部分であるため。中国と日本の就学前教育はそれぞれの特徴があるので、互いに交流することで発展を促した

いと思う。

Q1 :

今回初めて日本を訪問したため、これまでの日本に対する理解はそれほど深くなかった。百聞は一見に如かずと言うが、今回の訪問を通じて、日本のことが深く印象に残り、一生忘れることはないだろう。例えば、市民のマナーの良さは想像以上だった。

Q2 :

学校訪問や関係機関の方々との交流を通じて、日本の教育の現状について、ある程度理解を深めることができた。

Q3 :

生徒の能力を引き出すための具体的な施策や方法、特色ある学校運営などを、中国は大いに学ぶべきだと思う。また、義務教育の確実な実施という面でも参考にすべきである。

Q4 :

授業カリキュラム（指導要領）、教材の編纂などについて、具体的に知りたい。例えば、あるカリキュラムの基準がどのようにして決められるのか、それが日本の教育の現状に合っているのか、編纂された教材はカリキュラムの基準に合っているのか、教材はどのように検定されるのかなど。